

## 軽米病院運営に係る軽米町議会との意見交換会質疑応答議事録

開催日時 令和8年1月21日(水)16時~17時15分

会場 総合会館 瀧村屋

**本田副議長)** 救急車などで搬送されてきた患者に身元引き受け人が無い場合の対応は。

**葛西院長)** 市町村に介入してもらうことになる。最近も県外の方で搬送されてきたもののがなくなった身寄りの無い方がいたが、軽米町にカバーしてもらったことがある。

**茶屋議員)** 昨年11月くらいから県立病院の赤字であることは報道で見聞きしている。

今日の説明とも一致するものだが、次期診療報酬改定では3%程度引き上げられるようだ。今後の経営にどの程度影響があるのか。人件費の上昇や物価高騰の影響を補う形になるか。

**葛西院長)** 国が賃金の上昇が5%以上を目指すとやっているなか、診療報酬の引き上げは3%。はじめから足りてないと感じる。

**茶屋議員)** 国が考えるべき問題だと思うが、県もなにか支援を考えるべきではないかと思う。必要な手当がされなければ医療に携わる人がいなくなる、ひいては病院が町からなくなってしまうのではないかと心配する。

**青木事務局長)** 今回の補正予算における医療機関への支援が想定通りであれば16億円程度となるが、現在見込まれている令和7年度の赤字が67.5億円。プラス当初から予定しておりました45億の事業債と合わせれば、どうにか年度は越せそうというのが現状。

来年度は診療報酬改定もあるので、併せて考えれば少し光が見えてくるのかなと思っています。

**細谷地議員)** 経営状況や県立病院の現状、今後の見通しなどについて説明いただいたが、院長が考える軽米病院の喫緊の課題は何か。

**葛西院長)** 患者の確保と職員の確保の二つ。

人口減少の影響もあって、外来患者数や救急の患者数が減少している。だからといって何でもかんでも病院にかかってほしいというわけではなく、軽米病院応援しようと地域の皆様に議員の皆様からも言っていただけるとありがたい。

私もあと1年で定年となる。横島理事は定年後も使命感を持って頑張ってもらっているし、自分も定年後も延長して頑張ろうと思っているが、若い医師もいるものの大学からの派遣で、何年かすれば交代する。奨学金養成医師は9年間の義務年限のなかで大きな病院や中小の病院で勤務しなければならず、なかなか腰を据えてということにならない。

今、軽米病院には副院長がいない。後を引き継ぐ人材の確保が課題。軽米病院は残していかなければならないと思っているが、そのためには医師・看護師等の人材確保について。患者数の減少と同様に危機感を持っている。

当院のホームページに進路相談コーナーを設けているので、ご家族親類で医療に関心があるお子さんがいらっしゃれば見てみてもらいたい。

医師を希望される方には医療局等の奨学金もある。奨学金は県立病院とか公的病院に勤めてさえくれば返還は免除される。

**細谷地議員)** 病院の存続についての見通しはどうか。我々も相当危機感を持って対応していかなければならないのはもちろんだが、このままでいくと他の地域のように診療所化しかねない状況か。

**青木事務局長)** そういった事態を避けるべく、積極的な患者の受入れに取り組んでいるし、経費の節減など経営改善も取り組んでいるところ。

軽米病院は県北地域において重要な立ち位置にある病院だと県も認識しており、今すぐ診療所化というような話にはならないと思うが、医師をはじめとした職員の確保が難しくなり、また患者数の大幅な減となれば、厳しい経営状況等を踏まえると規模機能の大幅な見直しが無いとは言い切れない。

**江刺家議員)** 一戸病院は訪問看護ステーションを持っているが、どういう経緯なのか。

**葛西院長)** 一戸病院はもともと精神科の訪問診療・看護が多かった。それを一般科の患者に拡大するためにも訪問看護ステーションを立ち上げたもの。

**江刺家議員)** 軽米病院には糖尿病の患者を診察するために眼科の医師が診療応援に来ていと聞いた。八戸市まで眼科に通うのは大変なので軽米病院で眼科を受診出来ないか聞いて欲しいと相談を受けた。

**横島理事)** 軽米病院は糖尿学会の認定施設になってるので、糖尿病患者の診察のために岩手医大の眼科の教授を通じて診療応援をいただいているが月2回程度。

診療日が限られるので希望する方すべてに対応するのは難しいが、糖尿病の患者で目の治療が必要だが交通手段が無く、遠くの病院に通えない高齢者の方から相談があれば、可能な範囲で受入れられている。

不定期の診療応援のため、医師が来る日が決まったら、糖尿病の患者に連絡して診察日にあわせて受診してもらう形をとっている。また、入院中の患者でどうしても診察が必要な患者も対応いただいている。

**中村議員)** 病院は町にとって最低限必要な施設だと思う。ただ、病院の経営が良くなるということは逆に考えれば病気の人、不健康な人が多い町とも言えるのではないか。経営のことを強調されると少し違和感を感じる。

儲かるのであれば民間が経営するだろうし、公立としての立場に立てば、病院は儲ける必要はないのではないかと思う。

町としては、病気予防の施策に取り組んでいるし、自分はスポーツ振興のなかで体を鍛えることだけでなく健康維持、国保医療費を下げるんだというような考えで町作りを進めてきた。どうやって病気にならないかに取り組んできたので、どう意見していいかわからないところがあるが、県のトップの方々と医師をはじめとした医療者との意見交換をしていけば、計画等を策定している県の考え方が変わってくるのではないかと思うがいかがか。

**葛西院長)** 病気になる人が減ってみんな健康な方が良い、医師と坊主は暇な方がいいというのはそのとおり。たとえば、警察や消防に営利を求めない。私もなんで病院ばかり言われるのだろうと思う。

社会的インフラとして、国が公的病院の経営は全部保証してくれるとなれば、潰れる心配もなくなり、もう少しゆとりを持って医療にあたれるのかもしれないが、現実そういった形にはなっていない。

知事とは毎年開催される懇談会などを通じて県の医療について議論をしており、医療をとりまく環境は知事もよく理解している。

おっしゃることは県というより国レベルの話で、高福祉国家にでも変わらない限り難しいと思う。この辺はちょっと答えが出ない問題だと思う。

**中村議員**）軽米病院は県立病院ではあるが、町立病院と同じくらいの考え方を持って、町の支援もあってしかるべきじゃないかと思う。

例えば今、県立軽米高校に対して生徒数確保のために町が多くの支援をしている。県立病院に対しても町が支援できないかと思う。

軽米町では健康ふれあいセンターを設置するときに、保健・医療・福祉が一体となった活動をして町民の健康を守っていくということで病院にセンターを併設する形でスタートした経緯もある。これも県と町との連携の形だろうと思う。

町として今何が出来るのか、すぐには思いつかないので、病院側でこういうことがあればというようなヒントがあれば教えて欲しい。

**青木事務局長**）今おっしゃっていただいたような町の保健福祉部門と病院の緊密な連携の形がまさにひとつの協力のあり方だと思っている。軽米町とは保健医療活動を共同でやっている。併設された健康ふれあいセンターと密接に連携しながら、また、地域の介護施設等の協力もいただきながら、医療介護の連携を図っている。この活動については他の地域からも評価をいただいております、今後もこういった取り組みを発展させていければ、地域と一体となった病院運営が出来ると思っている。

町が予防や健康増進に力を入れてらっしゃるのは重々承知しているが、それと同様に医療についても関心を持って一緒に考えていただければありがたい。

また、収益の確保を病院が追求するのはいかかかということについては、おっしゃるとおりと思うが、我々も決して利益の追求が目的ではなく、必要な医療機能を確保することが目的であり、理想とすれば経営的には収支均衡が目標。

ただ、国や県からの繰入金等を入れたとしても、収支均衡に届いてないということが問題。患者数が減少しているということは、医療のニーズが無いのではないかという見方もされかねないなかで、患者数の確保に取り組んでいるところ。

県立病院の創業の精神は県内に必要な医療を等しく行き渡らせようというものであり、それを達成する取り組みのひとつとして収支改善があるもの。

**横島理事**）誤解してほしく無いのは入院患者がある程度確保されているのは、軽米町の方の入院が増えているわけではない。入院患者に占める軽米町民の割合は半分くらいで、あとは二戸市や久慈市、九戸村からも来ている。軽米の人が不健康になっているわけではなく、県立病院の役割として軽米町だけではなく広く県北地域の患者を受入れるという形で役割を果たしているということ。遠くは普代村や田野畑村、奥中山地区や青森県の田子町からも受入れている。そういうふうに圏域を広げて、患者を受入れる取り組みをしているということ。

**松浦議長** 町としてどういう形で支援出来るかということ話を聞きながら考えていた。患者の受入れというなかで交通インフラの問題がある。大野線についてはバスの連携を維持することになっているが、通院の手助けとなるような体制整備が出来ればと思う。

**葛西院長** 患者の間では町民バスの100円バスは大変好評のようだ。

病院もバスが周回する日が地区によって決まっているので、その地区の患者が来る曜日が分かる。100円バスの路線がもうちょっと広がればいいのかと思う。車が運転できない高齢者がタクシー数千円かけて病院にくるのは大変。

100円バスで来るから診察予約を月曜日にしてほしい、木曜日にしてほしいという希望は全然構わない。

**横島理事** 通院もそのとおりだが、困っているのは救急を受診したいとき、あるいは入院患者の家族に来て欲しいときに、夜間の交通手段が無いということ。夜遅くなるとタクシーも無い。

患者の急変は時間を問わないので、深夜タクシーが動かないというのが町民が困っていることだと思う。

救急車で病院に来られても帰りの足が無い。何かしら交通手段があればもう少し軽米病院の利用がし易くなるかもしれない。

**松浦議長** 洋野町の太田地区からも患者は来ているのか。

**横島理事** 外来も入院も来ている。他には久慈病院で急性期の治療が終わって転院してくる方もいる。

**松浦議長** 県立病院なので直接的に町が支援するのはなかなか難しい話ではある。市町村医師養成事業はあるが、看護師の確保についても協力したくても難しいところはある。

**中村議員** 二戸高等看護学校など看護師の養成校がたくさんあるが、卒業して県内に残る人は少ないのか。

**葛西院長** 東北では仙台市一人勝ちの状態、あるいは東京など。都会志向もありなかなか残らない。

県北地域を希望する人は少ない。正規職員として転勤の形でようやく配置出来ている。

県立大学の看護学部でも他県出身の学生が増えている状況があり、県内の志望者を増やすことが課題となっている。

岩手医大も同様に岩手出身者が少ない。他県との学力差の問題もある。

**松浦議長** 新たに企業管理者を置くという報道を見たが、どういう趣旨なのか。

**青木事務局長** 県議会での議論の最中ではあるが、トップマネジメントを強化し基本方針策定などを担う職と聞いている。また、国や関係大学との折衝などでもメリットがあるのではないかと思う。

